

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：くりの実保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：後藤 健三郎	定員（利用人数）：40 名	
所在地：〒215-0023 川崎市麻生区片平4-1-30		
TEL：044-712-0660	ホームページ： https://www.kakinomi.com/kurinomi	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：学校法人 柿の実学園		
職員数	常勤職員：14 名	非常勤職員：9 名
専門職員	（専門職の名称）：名	栄養士：1名
	保育士：18名	調理師：2名
	看護師：1名	子育て支援員：1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：沐浴室
	居室：2歳児室	設備：シャワー室
	居室：3.4.5歳児室	設備：事務室
		設備：相談室
		設備：幼児用トイレ
		設備：多目的トイレ
	設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

保育園は、保護者の皆様の就労や家庭の疾病等の事由により、子どもの養育等が出来ない場合に、児童福祉法に基づいて、保護者に代わって子ども達を保育するところです。くりの実保育園は、健全な心身の発達を図ることを目的とし、そして子どもの最善の利益を考慮し、子どもたちが「よりよく育つ」ことを願い保育を進めていきます。集団での生活を中心にたくさんの友達と一緒に生活する場です。五感を使って「育ちあいの場づくり」を基本理念として運営致します。

<基本方針>

1. 一人ひとりの気持ちを受けとめる保育
2. あたたかいふれあい保育
3. 子どもとの共有・共感を大切にする保育
4. 楽しさと興味を育む保育

<保育姿勢>

1. 子どもたちが「よりよく育つ」ことを願い保育を進めています。

2. 豊かな自然のなかで、四季を五感で楽しめるような保育を目指しています。
3. 子どもとの共有・共感を大切に子どもの主体性を大切に保育しています。
4. 集団生活の中で「仲間づくり」ができるように保育しています。

<子どもたちの保育目標>

- 優しい心 相手の気持ちを思いやる事の出来る仲間づくりをする。
- 強い心 自分で考え、見通しを持ち、行動する、生きる力を育てる。
- 素直な心 美しいものを見て、感動する心と豊かな発想と想像力を養う。

④施設・事業所の特徴的な取組

<園として大切にしていること>

- 子どもの人権を念頭に一人ひとりの気持ちを受け止める「あたたかいふれあい保育」を心がけています。
- 体操・リトミック・製作等、遊びを工夫し、自ら好きなことが見つけられるように楽しい保育を展開しています。
- 柿の実学園が有する豊かな自然の中で、「柿の実幼稚園の藪探検」や地域の自然探しの散歩を通し、「自然と友達になろう」をスローガンに保育しています。
- 小規模園の特徴を生かし、アットホームな雰囲気の中、職員皆で子ども達を見守っています。
- 地域やグループ園とのつながりを大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年08月05日（契約日） ～ 2023年02月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

【くりの実保育園の概要】

●くりの実保育園は、学校法人柿の実学園（以下、法人という）が、平成30年4月1日に開設した認可保育所です。設立法人は、川崎市を本拠地に横浜市、町田市等で幼稚園や保育園を幅広く展開しています。中でも法人本部がある柿の実幼稚園は、関東最大級の4万坪の敷地を有しています。法人の保育方針は、豊かな自然環境を生かし、四季を五感で楽しめる保育を大切にしています。地域のニーズに合わせた保育展開を行い、地元根付けるような法人を目指しています。法人系列の各保育園の園児たちも訪れ、四季折々に自然を生かした遊びを満喫しています。

●くりの実保育園は、小田急線柿生駅から徒歩10分程と利便性もよく、柿生の地域に愛される保育園として設立されました。3階建てマンションの1階部分を専有し、入所児は、0歳～5歳児まで定員40名です。小規模園ならではの特徴を生かした異年齢保育を展開し、保護者からも「アットホームで職員全員が子どもを見守ってくれている」との意見が寄せられています。子どもの気持ちを受けとめ、共有・共感しながら、温かくて楽しい保育園を目指しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【生きる力を育む保育】

くりの実保育園は、基本理念の子どもたちが「よりよく育つ」ことを願い保育を進めています。集団での生活を中心に、異年齢の子どもたちとの関わりを通して、基本理念を基に実践しています。大切にしている保育では、1.「身体を使って遊ぼう」2.「自然を探しに出かけよう」3.「異年齢保育を楽しもう」4.「絵本の世界を楽しもう」5.「リトミ

ック・製作」6.「自然と友達になろう」7.「自分の手で野菜を育てよう」等、豊かに、楽しく、生きる力を育むよう取り組んでいます。また、くりの実保育園の職員間の連携はとても良く、「チーム保育」が根づいています。3歳～5歳児の異年齢保育では、各年齢8名計23名の子どもたちを4人の正規保育士が担当し、子どもたちの興味・関心を引き出し、子どもたち、保育士も笑顔が溢れ、伸び伸びとした保育を実践しています。

2. 【五感を育む保育】

くりの実保育園では、各年齢の発達状況に応じて、積極的に自然との触れ合いを求めて散歩に出かけています。法人が大切にしている四季を五感で感じられる「原体験」を実践しています。法人本部がある柿の実幼稚園にはアスレチックや山の中にある探検村、陶芸体験、畑等があり、幼児クラスに進級すると出かけ、法人系列他園の子どもたちと一緒に楽しい活動を行っています。ただ、昨今の新型コロナウィルス禍（以下、コロナ禍という）により中止せざるを得ない状況があり、アフターコロナには再開の計画が期待されます。

3. 【人材の定着・育成への取り組みについて】

くりの実保育園の経営上の課題として、「人材定着と人材育成」が挙げられています。人材確保については、法人に運営本部を設置し、園のニーズに応じた人数を把握して入職までサポートする体制が起動しています。くりの実保育園は開園5年目となり、ここ2年間は安定してきています。人材の定着は人材育成につながり、保育の質の向上につながっていきますので、魅力ある職場環境作り等、今後の取り組みに期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：学校法人柿の実学園 くりの実保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

客観的な目で保育園を見ることで凝り固まった考え方を変える良いきっかけになった。行事ごとに保護者アンケートを取っているが、あくまで行事に対しての取り組みや、園での動きに対してのアンケートなのでどうしても、その一部分に特化してしまう内容となってしまうので、園の運営や、教育目標等の理解度を評価してもらうことは必要なことであると感じた。

職員も、自分の保育や園の保育を見直すきっかけとなり、パート職員正規職員共に振り返りをすることができた。

<評価後取り組んだ事として>

1. 保護者アンケートの抜粋をし、職員へフィードバックをした。園として取り組んできて成果が出ていることや課題の確認を行った。

2. アンケート内にあった、情報共有の希薄を減らすために、園だよりで必要な情報を今まで以上に発信するようにした。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり